

①活動の流れの例

【第1日目】

夏季：4月～10月 冬期：11月～3月

時刻		内 容	説 明
夏	冬		
10:00	10:00	【入 所 手 続 き】 【入 所 の つ ど い】 【オリエンテーション】 【班 別 活 動】	<ul style="list-style-type: none"> • 団体の責任者は事務室で人数・活動の確認を行う。 • 団体で司会進行を行う。 • 所員より生活のしかたの説明。(45分程度) • 部屋へ入って、荷物の整理やベッドメイキングを行う。
12:00		【 昼 食 】	<ul style="list-style-type: none"> • 持参弁当など晴天時は外で。(食堂注文も可)
13:00	13:00	【午 後 の 活 動】 • 施設提供活動 ウォークラリー 焼き杉クラフトなど • 団体の独自活動	<ul style="list-style-type: none"> • 各団体引率責任者と所員の打合せ。 • 10分前に集合し、所員より活動の説明および諸注意。
16:30	16:30	【夜 の 打 合 せ】	<ul style="list-style-type: none"> • 団体責任者と所員で、夜の活動・入浴時間・清掃等について打合せをする。
17:00	16:30	【タ ベ の つ ど い】	<ul style="list-style-type: none"> • 司会は所員。自動放送に合わせて行う。 通常時：つどいの広場 雨天時：集会室 • 2団体以上の場合、団体紹介を行う。
17:30		【 タ 食 】	※夕食は、固定時間。
19:00	18:30	【夜 の 独 自 活 動】 キャンドルのつどい キャンプファイヤーなど	<ul style="list-style-type: none"> • 活動に必要な備品類は事前に確認しておく。 (所員は夜間はいない) • 火を使った活動は、火の始末をしっかりと行う。
20:30	20:00	【 入 浴 】	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもなら12名程度一斉に入浴できる。
22:00	22:00	【 就 寝 】	<ul style="list-style-type: none"> • 点呼をし、就寝する。

【第2日目】

時刻		内 容	説 明
夏	冬		
6:00	6:30	【 起 床 】	<ul style="list-style-type: none"> • 起床放送が流れる。(自動)
6:40	7:10	【朝 の つ ど い】	<ul style="list-style-type: none"> • 司会は各団体。自動放送に合わせて行う。 通常時：つどいの広場 雨天時：集会室
7:00	7:20	【 清 掃 】	<ul style="list-style-type: none"> • シーツを指定場所へ運び、夜の打合せで決められた場所の清掃を行う。
7:30		【 朝 食 】	※朝食は、固定時間。
9:00	9:00	【午 前 の 活 動】 • 施設提供活動 ウォークラリー リバーポート 焼き杉クラフトなど • 団体の独自活動	<ul style="list-style-type: none"> • リバーポートの準備は8:45から。 • 各団体引率責任者と所員の打合せ • 所員より活動の説明および諸注意。 • 並行して部屋点検実施(別途活動以外で配置)
12:00		【 昼 食 】	<ul style="list-style-type: none"> • 食堂へ弁当を注文することもできる。
13:00	13:00	【反省会・後始末など】	<ul style="list-style-type: none"> • 活動のまとめをする。
13:30	13:30	【退 所 の つ ど い】	<ul style="list-style-type: none"> • 入所のつどいと同様に行う。

②入・退所のつどいの進行例

1. 入所のつどいの例

入所時は、誰でも期待と不安の入り混じった気持ちでいるものです。
その不安を取り除くとともに、これからの活動に対する意欲が持てるつどいにしましょう。

次 第	進 行 例（司会は児童・生徒が原則）
整 列 開会のことば 所長あいさつ （所長不在の場 合は所員） 児童(生徒)代表 あいさつ	「気をつけ。」「礼。」 「これから()の入所のつどいを行います。」 「はじめに、所長さんのお話を聞きましょう。所長さん、お願いします」 （所長さんが前に立ったら）「礼。」 （話が終わったら）「礼。ありがとうございました。」 「次は私たち代表のあいさつです。〇〇さん、お願いします。」 （〇〇さんが前に立ったら）「礼。」 （話が終わったら）「礼。ありがとうございました。」
引 率 者 代 表 あいさつ	「次に、私たちの先生のあいさつです。()先生お願いします。」 （先生が前に立ったら）「礼。」 （話が終わったら）「礼。ありがとうございました。」
校 歌 斉 唱 閉会のことば	「次に、校歌を元気よく歌いましょう。」 「これで、()の入所のつどいを終わります。」「礼。」

（注）校歌の代わりに所歌を歌ったり、班ごとの“めあて”を発表したりしてもよい。
入所のつどいの内容が上記の例と著しく異なる場合は、入所時の事務連絡の際に知らせる。

2. 退所のつどいの例

自然の家での活動全体を振り返るとともに、利用した期間で体得したものを今後に生かしていこうとする決意を新たにします。

次 第	進 行 例（司会は児童・生徒が原則）
整 列 開会のことば 所長あいさつ （所長不在の場 合は所員） 児童(生徒)代表 あいさつ	「気をつけ。」「礼。」 「これから()の退所のつどいを行います。」 「はじめに、所長さんのお話を聞きましょう。所長さん、お願いします」 （所長さんが前に立ったら）「礼。」 （話が終わったら）「礼。ありがとうございました。」 「私たち代表のお礼のことばです。〇〇さん、お願いします。」（〇〇さんが前に立ったら）「礼。」 （話が終わったら）「礼。ありがとうございました。」
引 率 者 代 表 あいさつ	「次に、私たちの先生のあいさつです。()先生お願いします。」 （先生が前に立ったら）「礼。」 （話が終わったら）「礼。ありがとうございました。」
“今日の日はさよ うなら” 斉唱 閉会のことば	「最後に“今日の日はさようなら”を歌いましょう。」 「これで、()の退所のつどいを終わります。」「礼。」

（注）今日の日はさようならの代わりに団体独自の歌を歌ったり、発表やまとめもしくはなしでもよい。

③タベ・朝のつどいの進行例

1. タベのつどいの例

- (1) タベのつどい 10 分前の放送で、速やかに指示された場所(通常:つどいの広場、雨天:集会室)に集合し、引率者の指示に従って、班ごとに整列します。
- (2) 旗係(6名)は、つどい開始 20 分前に掲揚塔へ集合します。(雨天時は集会室に集合)
- (3) 暮れ行く自然の中で、静かに一日の生活を振り返り、自己をみつめます。
- (4) 2団体以上の場合、団体紹介を行います。

次 第	進 行 例 (司会は所員)
整 列	(10分前の放送で集合、旗係は降納の位置につく) 「しばらくの間、今日一日を振り返ってみましょう。」
開会のことば 校旗等降納	(放送)「ただ今から、タベのつどいを行います。」 (放送)「……。旗に注目してください。」 *所歌に合わせて降納 「代表の人が、退場します。」 「ありがとうございました。(全体は拍手で迎える)」
所員のことば 団体紹介	「……………」。 「団体紹介に移ります。代表の方は前に出てください。」 「ありがとうございました。」
閉会のことば 連 絡	「以上で、タベのつどいを終わります。」 「礼。」 「引率責任者の方から連絡があります。」

2. 朝のつどいの例

- (1) 集合、整列は、タベのつどいと同様にします。
- (2) 早朝の澄んだ空気を胸いっぱい吸って、一日の活動の意欲を高めます。

次 第	進 行 例 (司会は利用団体引率者)
整 列	(10分前の放送で集合。旗係は掲揚の位置につく。) (引率者代表)「しばらくの間、昨夜を振り返ってみましょう。」 【自動放送開始】(夏期6:40 冬期7:10 開始) (放送) [チャイム2回]
開会のことば 校旗等掲揚	(放送)「ただ今から朝のつどいを行います。」 (放送)「自然の家の歌に合わせて、旗を掲揚します。姿勢を正して旗に注目してください。」 *所歌に合わせて掲揚
ラ ジ オ 体 操	(放送)「ラジオ体操をしますので、自由に広がって、班長はみなさんの方を向いてください。」 (ラジオ体操第一、用意……………)
朝 の こ と ば	(放送)「元の隊形に集まってください。」(少し、間あり) (放送)「それでは、朝のお話を聞きましょう。」 【自動放送終了】 (引率者代表)「[朝の話] ………………」
閉会のことば	「以上で朝のつどいを終わります。」

(注) 朝のつどい終了後、当日の活動等についての諸連絡があればする。

④ウォークラリー

各コースを地図を見ながら歩き、ポイント毎に設定された課題をクリアし、時間と課題点の合計で競い合う活動です。

自然の家では、荒神山一帯を使って6コース(別途散策コースもあり)設定しています。対象者やねらいに合わせて、コースを組み替えたりすることもできます。

1. 特徴

- (1) コースは、地図を見ながら散策すればよいが、利用団体の趣向によって特別コースを設定することもできる。
- (2) 速さを競うよりも、一定時間を与えてその間に一周してくるというやりの方が安全で、しかも自然を観察するゆとりがあるので望ましい。

2. 活動の方法

- (1) 1グループ6～8名程度の男女混成のグループが望ましい。
- (2) 人数の多少によって異なるが、3～5分間隔でスタートさせ、班長や活動係を中心によく相談して一周してくる。

3. 準備

- (1) できるだけ長ズボン・長そでシャツを着用し、帽子・手ぶくろ・タオル等、山歩きのできる服装をする。
- (2) 必要に応じてリュックサックの中に雨合羽、水筒等を入れさせる。
- (3) 各グループに筆記用のエンピツを1本とコースマップ用台紙(探検バッグ)などを用意する。

4. 安全管理

- (1) あらかじめ、どのコースにするかを決め、事前踏査を行い、引率者自身がコースやポイントの状況を熟知しておく。
- (2) 最低4名以上の引率者がコース上のポイントに立ち、安全管理を行う。
- (3) 立番指導の引率者は、ゼッケンを見てグループの通過を確認する。
- (4) 立番者は自分の時計で必ず何時何分に通過したかを記録しておく。
- (5) ポイントには誰が立番するか、自然の家の所員とよく打合せ、引率者の役割を決めておく。
- (6) 立番および本部は、無線機を使って密に連絡を取り合い、安全な活動に努める。

5. ウォークラリーコース図

- (1) A・B・C・D・E・Fの6コースあります。(コース図一巻末資料参照)
 - E→Bの逆回り、F→Aの逆回り
 - B・Eコースは短縮コースも設定しています。
- (2) ポイント毎の課題が明記されているが、独自に設定した課題を行ってもよい。

荒神山(ウォークラリーコース展望台)からの眺望

★ 比良山地

比良山地は幅3~10km、長さ15km程度の山地で、主峰は(1214m)、次いで(1174m)である。山地の東側は急崖で、扇状地を形成しながら琵琶湖に達している。山頂部は準平原状である。河川は短急で滝が多い。

★ 竹生島(長浜市)

琵琶湖上に浮かぶ花崗岩の島である。全島は竹、杉、松の天然林におおわれている。周囲は断崖で水深90m以上に及び、西国の札所(第30番)や日本三大弁財天の一つである神社があり、寺院唐門と神社本殿は国宝である。

★ 彦根城

琵琶湖八景の一つ「月明彦根の古城」は、井伊35万石の城である。1622年に完成、築城に20年を要した。面積は約2.5km²。周囲4km、高さ50mの平山城で、外濠・内濠が完全に残り、当時をしのぶことができる。天守閣は国宝に指定されている。

★ 沖島(近江八幡市)

琵琶湖で最大の島である。漁業が盛んで、シジミ・ゴリ・モロコなど、主として京阪神戸出荷される。

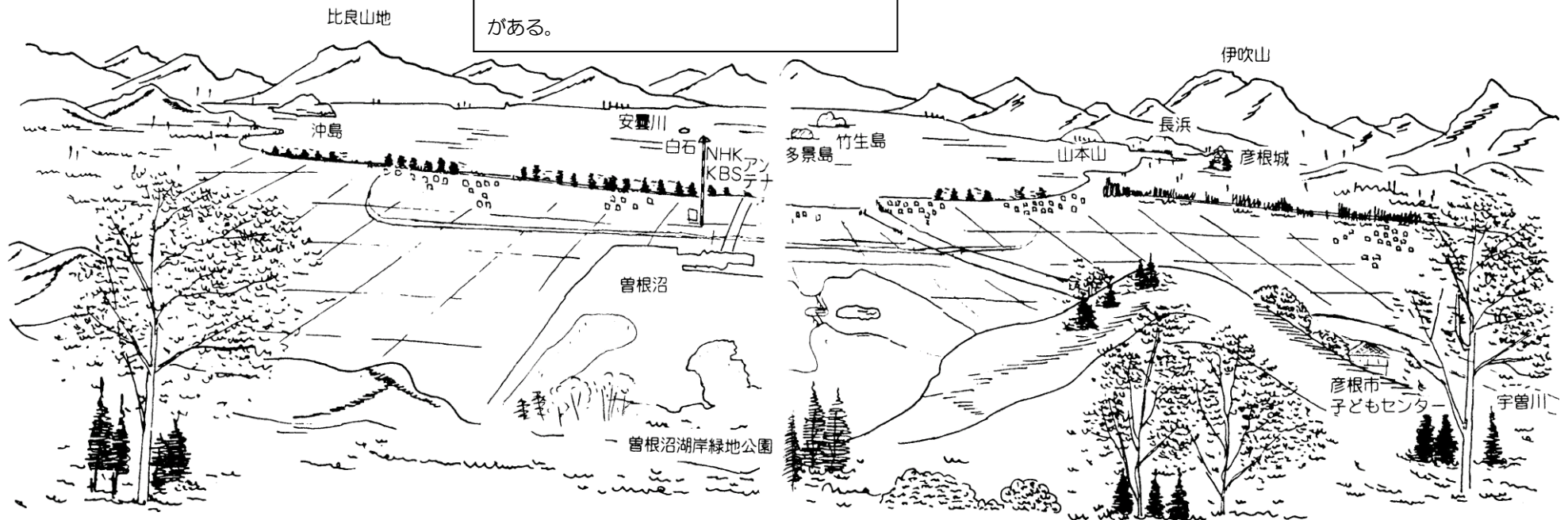
★ 多景島(たけしま)

周囲500mほどの小さな島である。眺める場所によって島の形が変化するとことから「多景島」の名がある。島には日蓮宗の見塔寺があり、法華題目「南無妙法蓮華経」と刻んだ巨岩がある。

★ 伊吹山(1377m)

荒神山からの眺めは富士山をおもわせるような優美な姿である。県下最高峰の山で、山頂には日本武尊の石像がたっている。全山は石灰岩におおわれ、良質なセメントの原料となっている。

5



⑤リバーボート

リバーボート活動は、ゴムボートに乗り、川(水)とのふれあいを通じて自然に親しむとともに、協調・協力、体力・気力の増強や判断力を養う活動である。

1. 活動期間、活動時間、活動流域

○おおむね3月～10月の期間（冬期は除く。）

○午前の活動・・・9:00～12:00

午後の活動・・・13:00～16:00

午後は波、風が強くなりやすいため、午前中の活動が望ましい。

○宇曾川を活動流域とする。

2. 定員

リバーボートの乗船人数は、1艇につき必ず6名以上が乗船するように計画する。

また、小学4年生以上での活動が望ましいが、低学年以下（小学4年生未満）が乗船する場合は、1艇につき必ず1名以上の成人が乗船すること。

3. 指導体制

(1) 活動方法の指導は所員が行い、安全指導は利用団体の指導者が行う。

(2) 安全指導については、使用艇数の半分以上の指導者がつき、陸上監視および水上(乗艇)指導にあたるよう指導者を適切に配備する。

(3) 必要に応じ、自然の家所員および利用団体の水上監視担当責任者は、監視艇にて、水上における安全指導に徹する。活動に際しては、利用団体の各責任者間および自然の家所員との連絡を密にし、安全に努める。

(4) 陸上監視者は、ボートが分散することを考慮し、適切に配慮すること。なお、救護担当者は乗艇せず陸上指導にあたる。

4. 事前手続・活動前打合せ

利用団体責任者は、活動の実施にあたって次項についての書類提出および自然の家所員と打ち合わせを行う。

(1) 実施日の2週間前までに「リバーボート活動実施計画書」を、当日までに「乗艇者名簿」を提出する。

(2) 乗艇者の人数・既往症・健康状態・特に配慮を要する者について打合せを行う。

(3) 団体指導者の指導・監視体制について打合せを行う。

(4) その他(気象条件・実施水域・活動内容等)

5. 活動前指導

- (1) 利用団体責任者は、乗艇者の健康観察を綿密に行い、活動参加の可否を決定する。
- (2) 活動参加者を対象に、自然の家所員が活動のオリエンテーションを行う。

6. その他

- (1) 活動実施の可否は、天候・水流・水量等の諸条件を総合的に判断し、自然の家と団体が協議して決定する。(気象状況により所長判断で中止する場合がある。)
原則、現地で風力3m/s以上の場合は、活動を中止します。
- (2) 乗艇者は、活動に適した服装で、救命胴衣(ライフジャケット)を着用する。
- (3) 用具の準備・後始末は、自然の家所員の指示のもと、利用団体で行う。
(児童・生徒の引率のほか、河川敷で活動準備係として2~4名必要。準備係は、活動開始の15分前に所員の指導の下、準備を始める。)
- (4) 活動実施場所への往復の引率は、利用団体の指導者が行う。
(事前に乗艇場所までの移動ルートを把握しておくことが必要)
- (5) 活動終了後、使用したボートの水拭きをぞうきんで行う。また、使用したぞうきんは、活動終了帰所後に利用団体で水洗いと干す作業をする。



⑥クラフト（創作活動）

創作活動は、その過程で児童生徒の創意工夫が生かせ、完成まですべて自分の手で創ることによって満足感を味わうことができます。

1. 焼杉クラフト（キーラック）

（1）準備するもの

①個人、または団体で用意するもの

軍手（綿製のもの） ※ゴム製のもの是不適。

②施設が用意するもの

用具 — 半丸やすり、丸やすり、ワイヤーブラシ、ガスバーナー、きり、
亀の子たわし、ペンチ、木工用ボンド、耐熱手袋、金づち

材料 — 杉板、目玉、ヒートン、L字金具、ひも

（2）作り方

① あら削り（図1）

ア. 半丸やすりの丸い方を使い、図1の斜線の部分（表面のみ）を斜めに削る。

イ. 横から見て、厚さ半分程度に削る。

② しあげ削り

ア. だいたい削れたら、半丸やすりの平たい方を使い、しあげ削りをする。

イ. 木目の出方を確かめながら仕上げていく。

③ 焼く（軍手をはめる）

ア. 全体が黒くなる程度に、ガスバーナーで焼く。

イ. 裏側は薄くこがす程度に焼く。

④ みがく（図2）

ア. 木目（木の模様）の方向にワイヤーブラシをかけて炭を落とす。

イ. 木目（木の模様）がはっきりしてくるまで、何回もブラシがけをする。

ウ. 木目（木の模様）の方向に、たわしでみがく。

エ. 布や軍手で光沢が出てくるまでよくみがく。

⑤ 目玉つけなど（図3）

ア. ヒートンを手でねじりながらつける。

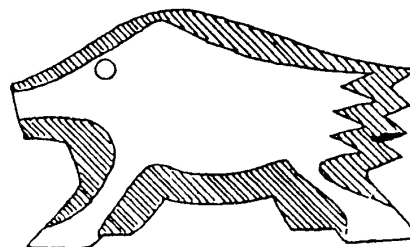
（きりで軽く穴を開けると入りやすい）

イ. 杉板の目の位置にボンドを少しつけ、穴の大きさにあった目を軽く押し込む。

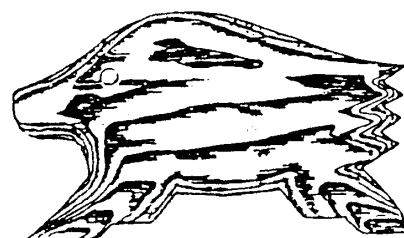
ウ. 好みでL金具をつける。（一人2本まで）

エ. ひもをヒートンに通して結ぶ。

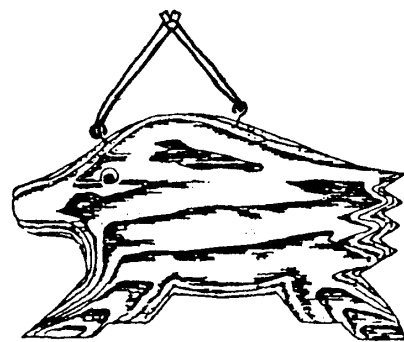
オ. 彩色したり、文字や絵を描いたりしてもよい。



（図1）



（図2）



（図3）

※ 「キーホルダー」の作り方もほぼ同じ。

2. 実施上の留意点

(1) 実施場所

主として創作活動棟(クラフト棟)を使用する。(作業机 20 台 イス 200 脚)

(2) 用 具

自然の家における製作用工具は次のようなものがある。

かなづち・のこぎり・ペンチ・なた・小刀・やすり(半丸・丸)・糸のこぎり
ワイヤーブラシ・亀の子たわし

※工具を損傷、もしくは紛失した場合は、必ず申し出ること。

(3) その他

- ① 時間を十分に与え、あせらず製作させることが危険防止につながる。
- ② ナイフの持ち方、使い方について、事前に十分指導しておく必要がある。
- ③ ケガの防止と同時に、火を使用する場合には、場所等にも十分配慮すること。
- ⑤ 焼き杉クラフト活動には、バーナーで板を焼く指導者(スタッフ)を1~4名、紐やヒートンなどの小さな材料を配布、管理する指導者が1~3名必要になる。

3. その他のクラフト活動

○キーホルダー *キーラックとほぼ同じ工程



キーラック



キーホルダー

○その他、下記のクラフトメニューもございます。

(例)

・手作りスプーン、フォークづくり

※作業工程の中で難しい部分がありますので、活動を希望される場合は
ご相談ください。

⑦ 野外炊事活動

野外炊事は、野外活動の中でも魅力ある活動の一つです。自分たちの力で火をおこし、協力し合って調理した料理の味は、忘れられない思い出になるでしょう。

1. 自然の家での野外炊事

基本的には創作活動棟（クラフト棟）とその周辺（かまど棟・炊事棟など）で行う。

(1) 野外炊事メニューについて

カレーライス、焼きそば、バーベキューなどのセットメニューになっているもので、手軽に野外炊事が楽しめます。

(2) 食材注文について

セットメニュー以外で、オリジナルメニューで野外炊事をする場合は、食材などは持ち込んで調理することができます。

(3) 注文について

「野外炊事注文書」で申し込みます。

☆食中毒予防のため、食材の持ち込みと野外炊事注食材文との混在は禁止しています。ただし、つぎの物は団体に用意していただいても構いません。

<持ち込み可能な物>

○米 ○飲み物 ○乾物や調味料 ○木炭などの燃料

2. 野外炊事備品について

野外炊事に必要な物のほとんどは、無料で貸出しています。

○「備品使用一覧表」で申し込みます。

ただし、下記のものは、利用団体に用意をお願いします。

<利用団体が用意する物>

○食器洗い用洗剤（クレンザーなども含む） ○布巾 ○マッチやライター
○焚きつけよう新聞紙等

3. 野外炊事のかまど（火床）について

自然の家では以下の2種類のかまどを利用することができます。

(1) 常設かまど棟（20基）



<常設かまど棟>

最も気軽に利用できるタイプの野外炊事施設です。下段で薪を燃やして、上段に飯ごうや鍋をのせて調理をします。上下段とも取り外せるので、灰の始末もしやすくなっています。

※レンガを傷つけないこと。

※水はかけずに自然冷却させること。

※かまどに残っている薪は、燃やしきってから灰捨て場にすてること。

(2) 半ドラム缶(20台)・半ドラム缶台(20台) <備品貸出一覧表 提出>



<半ドラム缶>

ドラム缶を半分に切ったものをかまどとして利用するタイプ

五徳がわりになる鉄格子をのせて、その上に飯ごうや鍋をのせて使います。バーベキューの時はバーベキューコンロとして、網や鉄板をのせて使います。どこにでも設置できるのが最大の利点で、天気の良い日はつどいの広場に持ち出して使うことができます。

4. その他 気をつけること

- (1) 食材は、食堂または昇降口にある冷蔵庫に取りに行く。
(所員の当日の指示に従う。)
- (2) 薪(有料)は、集会室横の薪置き場に取りに行く。
(必要な分だけもっていく。無駄使いしないようにしましょう。)
- (3) 水道で洗い物をするときは、生ゴミが配水管につまらないように、必ず蛇口の下にザルをうけてすること。
☆必ず「備品使用一覧表」に「ザル」を記入すること。
- (4) 野外炊事で出たゴミは、利用団体でお持ち帰りください。
☆放置しておく、カラスが来ます。
- (5) かまどの燃え残った薪は、できるだけ燃やしきって、灰にしてから「灰捨て場」に捨てること。余った薪は適量を束ねて、薪置き場にもどすこと。
☆かまどや「灰捨て場」には水をかけないでください。
☆万が一燃え切らずに残った場合は必ず所員に申し出てください。
- (6) 使った備品や食器については、きれいに洗い、布巾でしっかり拭いてから、返却すること。
☆天気の良い日は天日干しをして返却します。
☆雨天時は、ふきんなどで水気を取り返却準備をした上で所員に申し出てください。



⑧キャンプファイヤー

燃え盛る火を囲んで行うキャンプファイヤーは、火の尊さを知り、自己を見つめ直したり、仲間との温かい友情の絆を深めることができたりする活動です。

1. 所要時間

約90分。原則、21時までに終われるように活動を組む。

2. 服装

長袖、長ズボン。（夏場でもなるべくこの服装で）

3. 実施前の準備

(1) 役割と担当者の決定（例）

① 営火長（1名）

つどいのまとめ役で、営火長のことは(第1部 迎火のつどい・第3部 送火のつどい)を担当する。

(通常は引率責任者があたる)

② 司会（2名）

プログラムの編成と全体進行を受け持つ。

(指導者、第2部においては児童・生徒でもよい)

③ 聖火係（1名）

営火を持って入場し、営火長に渡す。(児童・生徒)

④ 献詞係（若干名）

献詞または誓いの言葉を述べるとともに、火床に点火する。(児童・生徒)

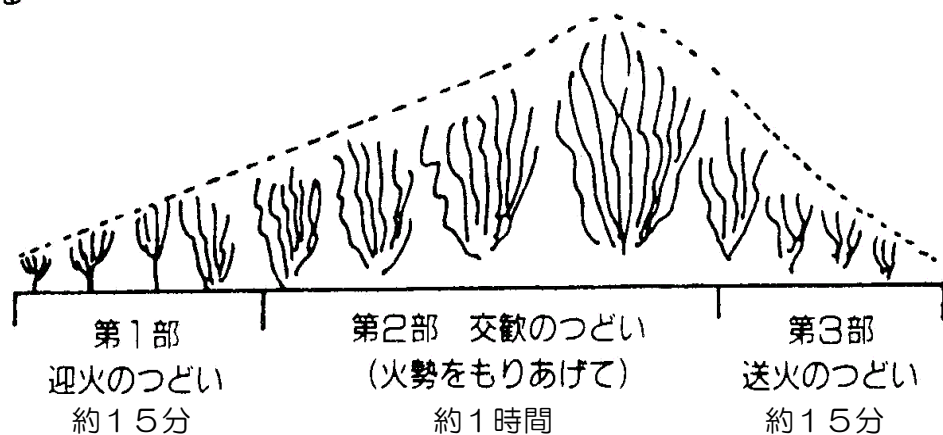
⑤ 営火係（若干名）

薪組みから火の始末まで、火に関するすべてのことを担当する係。

燃えにくい素材のものを着用し、帽子や手袋も着用する。火の燃やし方は司会の進行に合わせ、劇や合唱のときは火を強くし、静かな話のときは火を弱くするなど、演出された内容によって火の調整をする。(引率者・指導者)

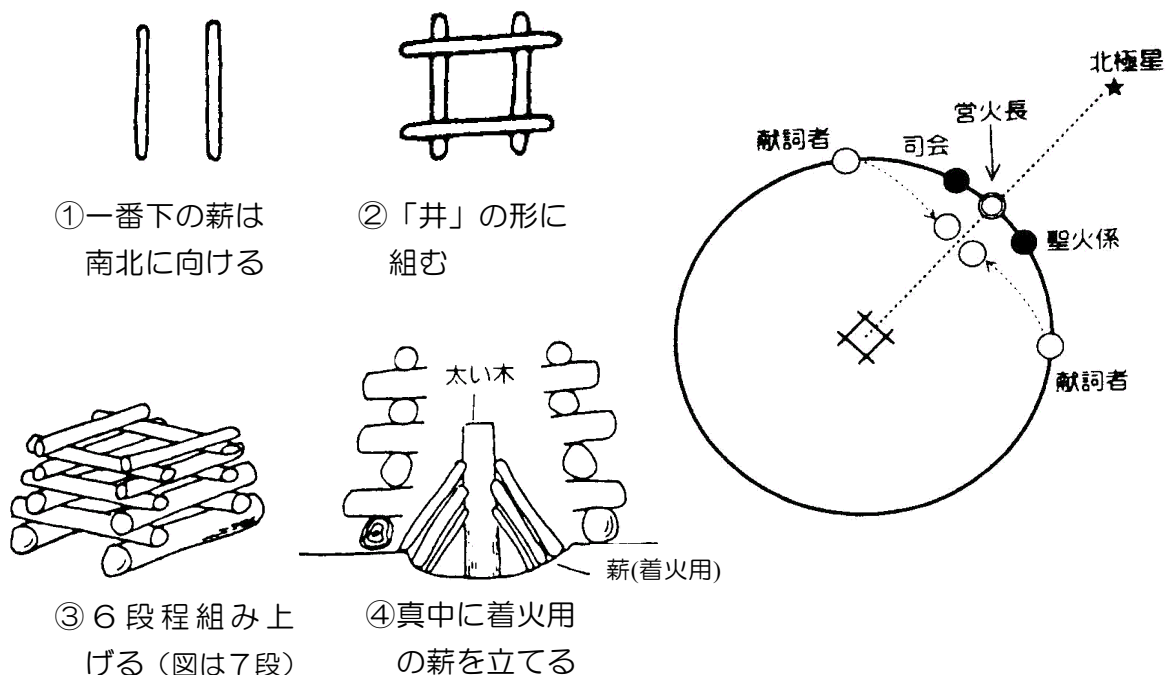
★キャンプファイヤーの火勢

雰囲気にあわせて
火勢を調節する

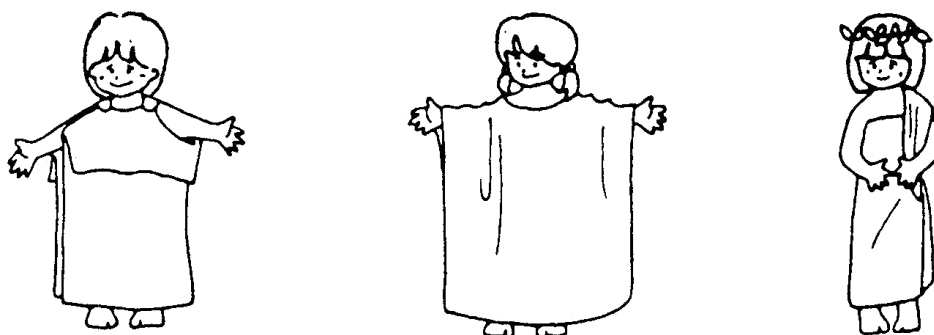


(2) 薪組み

(3) 配置図 (例)



(4) 聖火係の衣装 (例)



(5) 準備物

① ファイヤー材	6段程度	④ 1輪車	1台	⑨ 聖火係衣装
② まき	1束	⑤ 角スコップ	2本	⑩ 音響(アンプなど)
③ 古新聞	適量	⑥ 消火バケツ	2個	⑪ ドラムコード
		⑦ 灯油	適量	
		⑧ トーチ	数本	

①、②、③、④、⑤、⑥、⑦はファイヤー材一式(有料)として準備します。
 ⑧、⑨、⑩、⑪については必要があれば、備品使用申込書に希望数を記入してください。

4. プログラムの一例

プログラム	説明	備考
<p>ー迎火のつどいー (第1部)</p> <p>① 全員入場</p>	○ 静かに所定の位置につく。	聖火係は出発点に待機する
<p>② はじめのことば</p> <p>③ 迎火の歌</p>	○ 司会者が開始の挨拶をする。 ○ 「遠き山に日は落ちて」の歌詞を歌う。 続いてハミングで歌う。	
<p>④ 営火入場</p> <p>⑤ 営火長のことば</p>	○ 聖火係は歌がハミングに入ったら火を持って入場する。サークル内を一周し、ハミングが終わるころ正面に立ち、営火長に聖火を渡し、その横に立つ。 ○ 火に関する話、感動的な話等、団体生活にふさわしく思い出として残る話をする。	【参考例参照】
<p>⑥ 献詞</p> <p>⑦ 点火</p> <p>⑧ 明るい歌</p> <p>⑨ 着席</p>	○ 献詞者は営火長の前に並び、ひとりずつ火を受け、トーチを右手に高くかかげ、献詞または誓いのことばを述べる。 ○ 営火長の「点火」の合図によって、トーチを高くかかげたあと、火床の中央部よりやや上の方に点火する。 ○ 火が燃えあがると同時に「燃えろよ燃えろ」「若者たち」等の歌を歌う。 ○ 司会者は1部の終了を告げ、司会者の合図で着席する。	献詞者が点火係を兼ねる
<p>-交歓と親睦のつどい- (第2部)</p> <p>① 各班の出し物</p>	○ 明るく楽しい雰囲気高め、全員の交歓、親睦を深める。 ○ 時間に制限があるので、割り当て時間内におさめる。(1グループ5分で、8グループくらいまで) ● 司会者は事前に各グループの出し物を把握し、プログラムを立案しておく。 ● 司会者は、雰囲気づくりに充分気をつけて、演技全体が一つの流れとして山場がつけられるようにする。	各班の出し物の間に、全員でできるゲームソング、おどりをうまく取り入れる。
<p>② 静かな歌</p>	○ 静かな雰囲気のを歌う。	営火係は火勢を弱める。

プログラム	説 明	備 考
ー送火のつどいー (第3部) ① 起 立 ② 静かな歌	○ 司会者の合図で起立、第3部の開始をつげる。 ○ 「四季の歌」「かあさんの歌」等、心をしずめる静かな歌を歌う。	
③ 営火長のことば ④ 分 火	○ まとめにふさわしい印象的な話。 ○ 営火長が火床からトーチに火を採火し、順次全員に分火していく。(多人数の場合は、まず班長に分火し、そこから全員に分火していく。)	人数分のトーチが必要
⑤ 終わりの歌	○ 「今日の日はさようなら」「一日の終わり」等、結びの歌を歌う。	
⑥ 閉会のことば ⑦ 全員退場	○ 司会者の挨拶とおわりのことば。 ○ 静かに退場する。	

5. 各班の出し物

※ 出し物は、観賞するものではなく、参加することに意義がある。

- ① グループ全員で参加できる内容にし、個人芸は避ける。
- ② ユーモアのあるものにする。
- ③ 上品なものにする。
- ④ 演技の時間は5分程度、長くても7分までが望ましい。

6. 後始末

○貸出備品の返却

【農機具庫前】

一輪車、角スコップ、消火バケツ、灯油ボトル、トーチ

【事務室】

聖火係衣装、アンプ、ドラムコードなど

○キャンプファイヤーの残り火の始末

- *絶対に水等で消火しないでください。
- *ファイヤー消火器（夜の打ち合わせで確認する）を一晩被せておく。
- *警備員に終了の連絡をして、確認を受けてください。
- *翌日、完全に燃え切った灰を灰捨て場に処理ください。



(キャンプファイヤーでの話は、巻末の参考資料をご覧ください)

⑨キャンドルのつどい

キャンドルの炎を見つめながら、厳粛な雰囲気の中で自己を見つめ、ともし火の下でみんなが心を一つにし、ともに過ごした喜びを語り合い、希望を新たにする活動である。

1. 実施方法

プログラムや役割などは、キャンプファイヤーと同様の内容で実施できる。
(キャンプファイヤーの活動内容をご参考ください。)

2. 準備物

ろうそく	大(10号) 20本程度(聖火係用・燭台用)	}	団 体 で 用 意
	小(5号) 人数分		
燭台	中央用、個人用とも自然の家に常備している。		
衣装	キャンプファイヤーと同様に、聖火系の衣装。		

3. プログラムの一例

プログラム	説 明	備 考
ー迎火のつどいー (第1部)		
① 全員入場	○ 静かに全員入場して、燭台を囲んで輪をつくる。	聖火係は出発点で待機する
② はじめのことは	○ 司会者が開始の挨拶をする。	
③ 迎火の歌	○ 迎火にふさわしい歌を全員で歌う。初めは歌詞で、続いてハミングで歌う。	「遠き山に日は落ちて」など
④ 営火入場	○ 聖火係は、ハミングが終わったら(またはハミング中に)聖火を持って入場し、会場を回って、営火長に聖火を渡す。	
⑤ 営火長のことは	○ 火に関する話、感動的な話、団体生活にふさわしく思い出として残る話をする。	【参考例参照】
⑥ 献詞	○ つどいの喜びを友に語りかけ、友とともに誓う。	
⑦ 点火	○ 献詞者は中央の燭台に点火する。	
⑧ 歌	○ 全員で歌う。	「若者たち」など

プログラム	説 明	備 考
-交歓と親睦のつどい- (第2部)		
① 歌	○ 明るく楽しい雰囲気高め、全員の交歓、親睦を深める。 ○ 明るく健康的な歌、山の歌、なつかしい歌などを歌う。また合唱、輪唱できる歌もよい	
② ゲーム	○ みんなができる対抗的なもの、シンキングゲームなどがふさわしい。	
③ スタンツ	○ 素材で即興的なもの。ふん装などもありあわせのものを工夫し、効果的に演出する。	
④ ダンス	○ 簡単なフォークダンスやレクリエーションダンス、郷土色豊かなおどりなどがふさわしい。	
⑤ お話	○ 長く心に残るような話。聞く人の心を打つような話。体験発表などあれば。	終了直前にキャンドルに点火し、中央へ運ぶ。
-送火のつどい- (第3部)		
① 起立	○ 静かに全員起立する。	
② 静かな歌	○ ふるさとの歌、なつかしい歌を静かに歌う。	
③ 営火長のことば	○ まとめにふさわしい印象的な話をする。	
④ 分火	○ 班長が燭台に近づき、中央から火を分火してくる。その火を班員に分火する。	
⑤ 感想発表	感想、反省、抱負などを述べ合う。	
⑥ 歌	○ 別れ(送火)にふさわしい歌を歌いながら火を消していく。	「今日の日 はさようなら」など
⑦ 閉会のことば	○ 司会者の挨拶とおわりのことば。	

4. 後始末

- 燃え残ったろうそくは、一斗缶に入れ、消火を確認する。
- 会場を元通りにして後始末をする。

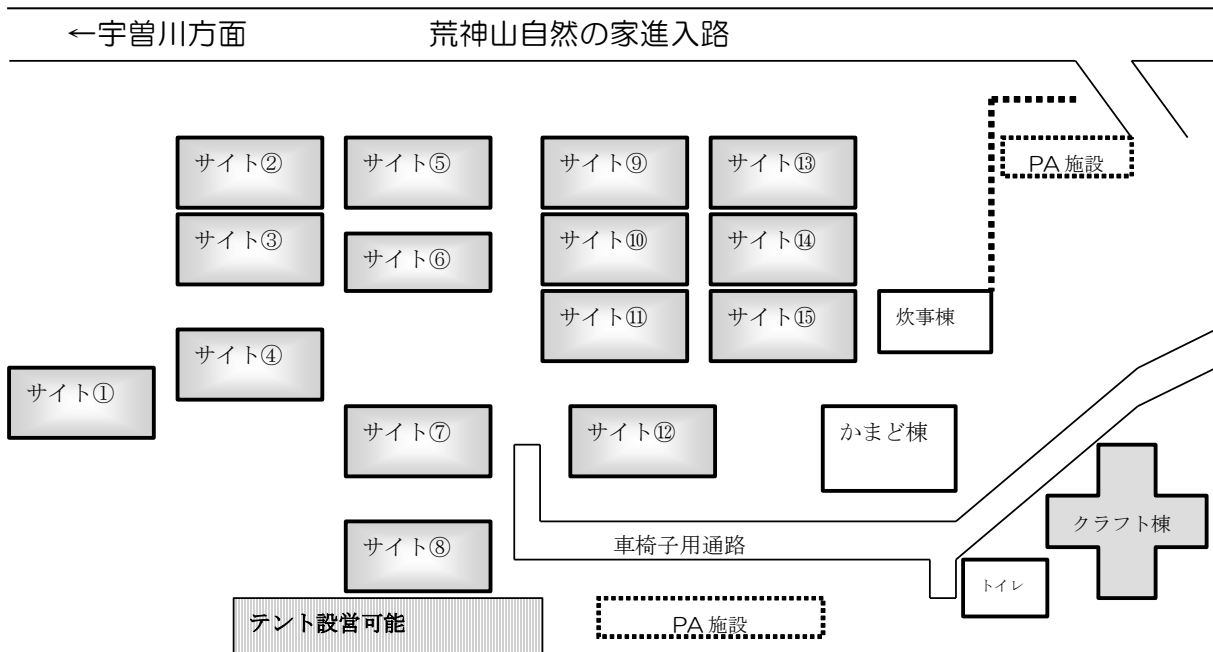
⑩キャンプ活動（テント泊）

キャンプ活動は、みんなで協力し合ってテントを立て、自然と一体となって過ごす活動です。

1. 自然の家のキャンプ場について

キャンプ場は自然の家の東側に位置し、針葉樹・広葉樹の木立の中に15のテントサイトをもっています。そのため特に夏季は木陰になり快適です。場内はゆるやかな起伏と傾斜があり、炊事場・かまど棟・野外トイレなどが完備されていて、特に初心者向きにつくられています。簡単に設営できるドーム型テントが20張あり、約100名がテント泊を楽しむことができます。

2. キャンプ場の見取り図



3. テント泊（テント設営）に必要なもの

- テント…テントの定員より1名以上少ない人数での使用が快適。（貸出用テントの場合、5名未満）
- テントマット…寝るときに背中が痛くないように、また地面からの冷えや湿気を防止するためにテント内に敷く。
- 電池ランタン…テント内の照明。ガスランタン等は危ないので必ず電池式にする。
- 寝具…寝袋（シュラフ）が本格的だが、一般的に夏場は毛布やタオルなどで代用可。
- 懐中電灯…夜間の移動に必要なもの。
- 虫よけ…夏季は必ず必要。蚊取り線香も有効。テント内では電池式蚊取りがよい。
- 雑巾…テントの後始末の時に、ボールやペグなどを拭く。
- その他、活動に必要なもの

※●印は無料貸出し有り。○印の電池や蚊取り線香などは、団体が持参のこと。

4. テントの張り方

- (1) テントを張る場所を決めて、石などを取り除き、整地する。
- (2) テントを張る向きを決める。
 - *自然の家キャンプ場のテントサイトは、基本的に横長なので、テントも横向けに張る。
 - *テントの向きが自由に決められる場合は、テントの入り口を風下、地面が傾斜している場合は入り口を傾斜の下方に向けるのが基本。
- (3) テント本体（内幕）を広げ、4隅をペグで固定する。
- (4) メインポールをつなぎ合わせて、内幕の4隅のピン（大きい方）にメインポール2本が交差するように差し込む。
- (5) 内幕のフックをメインポールにひっかけ、テントを立ち上げる。
 - *テント本体はこれで完成。
- (6) 前室ポールを前室ポール用ピン（小さい方）に差し込む。
- (7) フライシートの向きを確認してかぶせる。フライシートの縫い目とメインポールが合うように整えた後、フライシートのS字フックを内幕の4隅のリングに引っかけて固定する。
- (8) フライシートの内側についているマジックテープをメインポールに巻き付けて固定する。
- (9) 前室の部分も、ジックテープを前室用ポールに巻き付けて固定する。
- (10) フライシートの4隅や側面をペグで地面に固定し、張り綱を張れば完成。
- (11) 完成したら前室の正面を巻き上げたり、出入り口をメッシュの状態にしたりして、テント室内の温度が上がらないように風通しをよくしておく。

5. テントの片づけ方

- (1) テント内の荷物を全て出し、テント内のゴミを取り除いた後、出入り口を開放して風通しをよくし、テントをよく乾燥させる。
- (2) 組み立てた順序の逆にテントを解体していき、テント袋についている『テントの片づけ方』を見ながら内幕やフライシートをたたむ。
- (3) ポールやペグ、張り綱の数をチェックし、汚れを洗い落とし、雑巾できれいに拭いてから、それぞれの袋に収納する。
- (4) テント袋に全てのものを収納して完了。

6. その他

- (1) テント備品に破損や紛失があった場合は、速やかに所員に報告する。
- (2) テント撤収後はテントサイト付近を清掃し、現状復帰しておく。
- (3) テントの設営や撤営の方法については、ホームページに動画をアップしています。
(詳細は巻末の参考資料をご覧ください。)

⑪ 樹木散策（ラリークエスト）

樹木散策とは、自然の家の周辺を散策しながら、実際に生えている樹木の特徴を調べ、名前を当てる活動です。観察力を養い、樹木の理解を深めることができます。

1. 所要時間

約60分～90分。

2. 実施対象

小学生から中・高校生および大人。

3. 服装

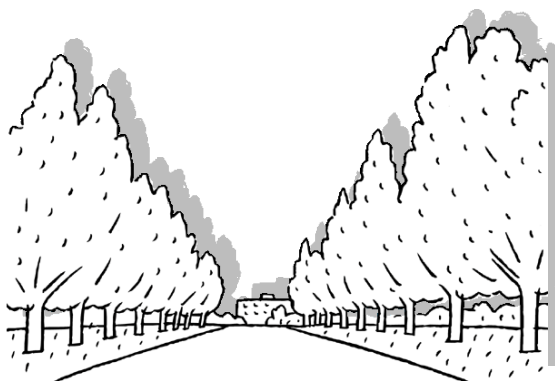
野外活動に適した服装。

4. 実施方法

- (1) 樹木散策（ラリークエスト）の問題と解答用紙をもってスタート。
- (2) 歩きながら、番号札がついている樹木を探す。（10枚札があります。）
- (3) 番号札がついている樹木を見つけたら、特徴や周りの樹木名などから名前を考える。
- (4) 樹木の名前がわかったら、解答用紙に記入する。
- (5) 10種類すべて記入できたら、解答用紙をチェックし、実際の樹木と比べながら自然の家まで帰ってくる。

5. 実施にあたっての注意事項

- * 実際行う場合のシートは、自然の家が用意する。（巻末参考資料参照）
- * 時期によっては異なることもあるので、直前に下見をしたほうがよい。
- * この活動は、学校等で十分な事前学習を行い、樹木学習の一環として位置づけ、事後の学習も計画しておくことで、効果がある。



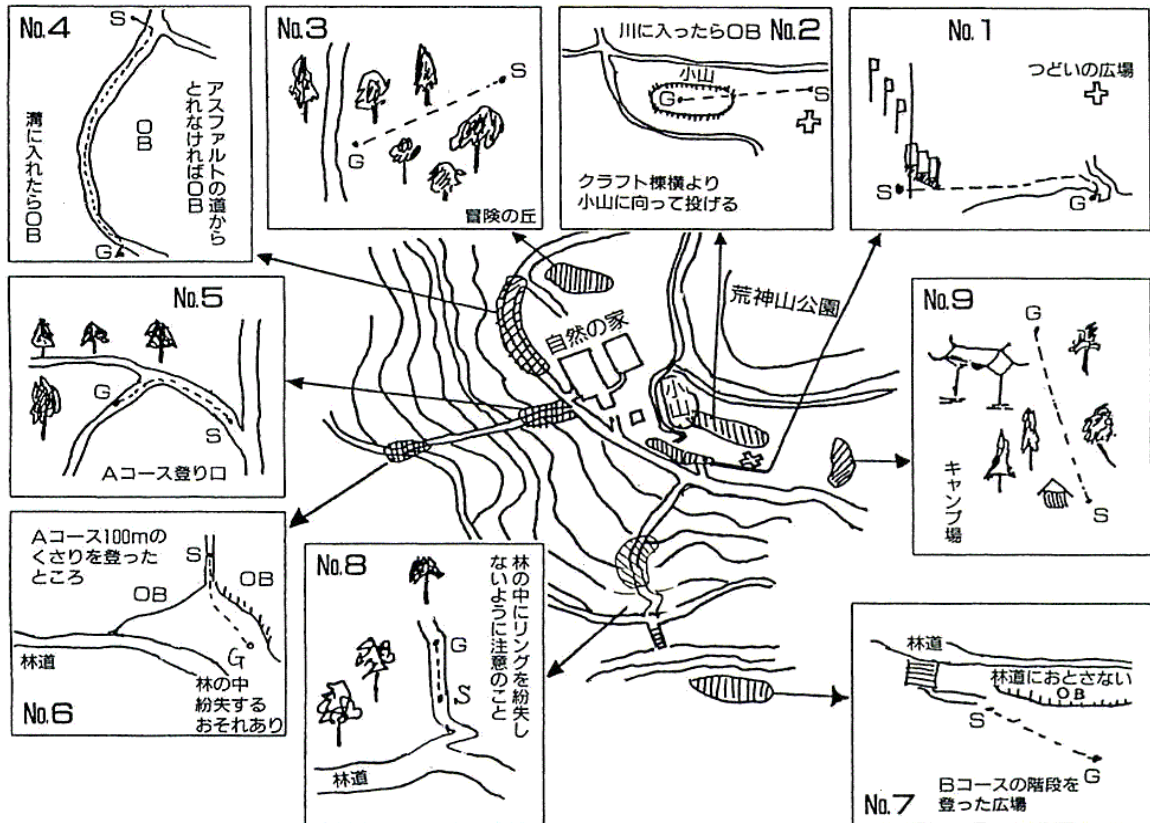
⑫マウンテンゴルフ

マウンテンゴルフとは、1～2人で1つのリングを持ち、ゴルフの要領でリングを投げながら各ホールへのポールに投げ入れるゲームです。

1. ゲームのやり方と注意

- (1) スコアカードに何回でポールに投げ入れたか、回数を記入する。
- (2) 最初はじゃんけんなどで順番を決定するが、次のホールからは得点の少ない人から行う。
- (3) ホール内では、ポールから遠い人より順番に投げる。
- (4) リングが停止するまで触れてはいけない。
- (5) 最初は助走して投げてよいが、途中はリングの停止した位置から投げる。
- (6) リングが停止した位置から投げる場合、リングの停止位置より前へ出ない。
- (7) OBに入れた場合は、2回分加える。
- (8) リングが体に当たった場合は、当たった人は2回分加える。ただし、故意に当てられた時は、当てた人に2回分加える。
- (9) OBに入れた場合は、もとの位置から投げる。グループでお互いの投げた位置を覚えておくとよい。
- (10) グループの人全員が終了したら、次のホールに移動する。

2. コース図



※No. 5～8ホールはハイレベル（中学生程度以上）のため、省略して活動してもよい。

⑬ ナイトハイク

自然の家から荒神山公園周辺のナイトハイク専用コースを散策する活動。
夜の自然観察として、また肝試しとして利用できます。

1. 所要時間

約20分。

Aコース：おばけマークの看板を目印にしたコース

Bコース：どくろマークの看板を目印にしたコース

(注) Bコースについては、イノシシ対策・対応のため、現在利用不可としています。

2. 実施対象

小学生から中・高校生および大人。

3. 服装・持ち物

野外活動に適した服装。必要に応じて懐中電灯やランタン。虫除けスプレーをしておくとよい。

4. 実施方法

(1) 駐車場（艇庫前）をスタートにして、諸注意を連絡する。

『肝試しの場合は、怪談を話す。（学年に応じて）』

(2) ほぼ1本道であるが、夜間の活動なので、何箇所かのポイントで、子どもの安全を見守る。

『夜の自然観察なら、虫の声のするポイントなど……。』

『肝試しなら、脅かすポイントなど……。』

* 曲がり角をポイントにすると、通り過ぎることがなくなる。

(3) 必ず全員が戻ってきたかを確認する。

(4) 独自にその他の道をコースとしてもよいが、必ず夜に下見をすること。

5. その他の活動との組み合わせ

(1) 星空観察と組み合わせることもできる。その場合、ゴールを子どもセンターの芝生などにして、そこで観察を行うとよい。

(2) キャンドルのつどいと組み合わせることもできる。途中でろうそくをもらってきて、それを使ってつどいを行う。

